

近年、トマトで最も気になる害虫と対策

① タバココナジラミ

概要

- ・コナジラミにはオンシツコナジラミとタバココナジラミなどの種類がいる。
- ・コナジラミの成虫は体長1mm、白い翅を持つ。
- ・広食性で多くの野菜、花、雑草に発生。
- ・成虫は新芽や未展開葉を好み、葉裏に産卵する。
- ・野外では4～11月までみられるが夏に発生が多く、9月がピーク。
発育適温は25～30℃。野外では越冬できないが、ハウスで温度があれば周年して発生。
- ・特にタバココナジラミはトマト黄化葉巻病を媒介するなど多大な被害を及ぼす。
- ・タバココナジラミのバイオタイプは従来のタイプ以外にバイオタイプB（シルバーリーフコナジラミ）やバイオタイプQがあるが、殺虫剤に対する感受性がタイプにより異なり、特にバイオタイプQは薬剤抵抗性が発達し、防除が難しい。



写真提供：静岡県病虫害防除所

被害

- ・コナジラミが吸汁した植物に白化症や着色異常を発生。
- ・成虫、幼虫が新芽や葉を吸汁し、その排泄物にすすが発生し、葉や果実が黒くなる。
- ・タバココナジラミは植物病原ウイルス（トマト黄化葉巻ウイルス・ウリ類退緑黄化ウイルスなど）を媒介。
→トマトで重大被害を及ぼす「トマト黄化葉巻病」については次項で紹介。

対策

- ①入れない
ハウス周辺の雑草の除草
0.4mm目合いの防虫ネット又は薬剤練り込みネット等の利用。
- ②増やさない
黄色粘着トラップを側窓または外に設置。
定植時の粒剤（ネオニコチノイド系）利用。
多発前に薬剤防除を実施。※系統の異なる農薬をローテーションして、薬剤への抵抗性に注意する。
気門封鎖剤や天敵の利用
- ③出さない
ウイルス病発病株は伝染源になるため、見つけ次第抜き取り処分する。
収穫終了後は株切をして、完全に枯死するまで施設を密閉する蒸し込みする。

トマト黄化葉巻病

病原ウイルス：トマト黄化葉巻ウイルス Tomato Yellow Leaf Curl Virus (TYLCV)

- ・ウイルスに感染したトマトをタバココナジラミが吸汁して、永久的（死ぬまで）他のトマトにウイルスを媒介。
- ・感染成立後、病徴が現れるまでは高温期では14日程度、低温期では1ヵ月程度。
- ・ウイルスは細胞分裂の活発な生長点に移動し増殖。
- ・ウイルスを殺す農薬は無く、感染植物が死ねば消滅する。

症状：

- ・発病初期はウイルスが増殖した新葉の葉脈から退緑しながら葉巻症状になり、葉脈間の黄化・縮葉して生長点付近の節間が短縮。
- ・被害を受けた生長点より上部の株全体が萎縮し、着果せず収量は減少。

海外でトマトに多大な被害をもたらす
小さな大害虫が近年国内で確認！

② トマトキバガ

概要

- ・世界的に急速に分布を拡大しており、中国や台湾など近隣諸国でも発生を確認。日本では2021年10月に熊本県のトマト圃場で確認された。静岡では現在確認されていない。（2022年12月現在）
- ・寄主植物はトマト、ナス、馬鈴薯、トウガラシ等。
- ・幼虫は体長約8mm、乳白色～緑白色でやや桃色がかった体色。
成虫は体長5～7mm、灰褐色の羽で細かい斑点があり、触覚が黒斑状。

トマトキバガ
(エカキ被害の写真)



トマトキバガ
(幼虫の写真)



体長約8mm、
乳白色～緑白色でやや桃色

トマトキバガ
(成虫の写真)



体長5～7mm、
灰褐色の羽で細かい斑点、
触覚が黒斑状

トマトキバガ
(食害の写真)



写真提供：熊本県病害虫防除所

被害

- ・トマトでは幼虫が葉、茎、果実に潜り込んで食害し、被害が大きいと株が枯れ、収穫が皆無になることもある。植物体内に潜り込むため薬剤防除の効果が弱く、被害を受けている欧州では、ハウス内に黒い粘着トラップを設置したり、天敵や性フェロモン剤を使用する生物的防除を用いるなどして対策をしている。

早期に侵入を見つけ出し、国内産地への拡散を食い止めることが重要！
発見したら静岡県病害虫防除所へご連絡を。(0538-35-7211)